

2027 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会 Q&A

日時：2026 年 8 月 10 日（月）16:30～17:10

No	項目	Q	A
1	酒類清涼飲料事業	原価低減や経費適正化の要因は？	製造設備の更新により動燃費が低減できた。価格上昇前の資材を確保・活用できたこともプラス要因。 経費面では投資の優先順位をつけ、急を要しないものはビジネストrendを見ながらタイミングを最適化した。
2	全体	第 2 四半期以降のリスク要因は？	今年は台風の影響が例年以上に大きく、注視している。 対応策として、ビジネスパートナーと連携し、団体客・修学旅行等の誘致強化の実施、並びに周辺観光施設との協業による誘客を進めている。 経費発生タイミングを最適化して通期計画達成を目指す。
3	酒類清涼飲料事業	コンビニ・EC など販売チャネル別の売上動向は？	県内・県外・海外・ライセンス・その他という区分で開示しており、コンビニや量販店などの定量的な個別開示は控えており、ご理解いただきたい。ただし、EC は非常に好調。
4	酒類清涼飲料事業	アサヒ GHD のシステム障害の影響は？	システム障害収束後のアサヒビールの積極的な販促活動の影響もあり、当社としても前年同期と比較してプラスに寄与した。
5	酒類清涼飲料事業	海外売上の国別状況は？	韓国では、前年に非常に好調だった反動で一時的な出荷調整が発生。米国では着荷タイミングの遅れにより、当四半期では収益認識されなかった分がマイナス要因となったが、期ズレのため通期では計画通り。
6	酒類清涼飲料事業	広告宣伝費の動向は？	通期では、特措法廃止の影響を吸収すべく、広告宣伝費・販促投資はかなり抑制した計画。 一方で、Q1 に投資を寄せており、昨年 Q1 を上回る水準。

7	全体	販管費の前年差要因は？	前年比で大きく抑制したものとしては、広告宣伝費の削減が最も大きい。
8	観光ホテル事業	観光ホテル事業の改装効果は？	改装費用の金額規模は1億円を下回る程度。オリオンホテルモトブのメインダイニング改装後、レストラン満足度が非常に改善した。 RevPAR改善は、主にADR上昇によるもの。